

クラス番号	905	担当教員名	木全 和巳
テーマ	サービスラーニング テーマ型 地域における〈しょうがい〉がある子どもたちへの本人支援、家族支援、事業所実践支援		
著書・論文 研究課題等	【単著】『児童福祉施設で生活する〈しょうがい〉のある子どもたち〈性〉教育支援実践の課題』(2010)／『安心して豊かに暮らせる地域をつくる』(2008)／『わたくしたちはソーシャルワーカーです』(2007)『子どもの権利とオンブズワーク』(2017)【共著】『障害は迷惑ではない』(2016)など		

ゼミナール概要

キーワード：子ども しょうがい 発達 家族支援 地域生活 サービス・ラーニング

地域社会においても格差と貧困が広がり、「子どもの貧困」への対応が課題になっています。こうした地域の中で、育てにくさをもつ知的・身体など発達などに機能しょうがいがある子どもたちへの地域社会における本人支援、家族支援の諸課題発見と、こうした諸課題解決に向けた実践の創造への取り組みについて、実践を阻害する制度政策の動向をはじめ、政治経済社会の「からくり」を学びつつ、子どもの権利、発達保障の視点から、地域住民としての市民活動の在り方を問いつつ、NPOなどの活動への参加を通して、深めていきます。

「サービス・ラーニング」ですから、「実習」ではありません。「活動」に共に参加しつつ、本人、保護者、支援者と対話をしながら関係をもちつつ、「市民」として、地域の子育て、特に何らかの発達に機能しょうがいのある子どもたちの子育て支援の現状や課題について、学び合います。「放課後デイサービス」が主なフィールドです。

しょうがいがある子どもの療育や放課後の事業所に3人グループ×6カ所を予定しています。

ゆめじろう／ PakaPaka／ ほがらか企画／ チャレンジド／ あした／ らいふ などを予定しています。

基本、楽しく「活動」をしましょう。子どもたちに寄り添いつつ、保護者、支援者たちからも、たくさんお話を聴いてきましょう。よろこび、やりがい、不安、心配、悲しみ、苦労などなど。

どうなっているの？ なぜなの？ どうしたいいの？ 一人の「市民」として、「市民」とは誰なのか？ 何なのか？ も、絶えず問い続けながら、深めましょう。

コロナ危機の中での実践の課題なども共に学び合いましょう

前期は、問題意識の発表、交流、活動先選択、事前学習、「企画」作成（聴き取り、課題、活動）、活動に向けた準備などを行います

夏休みには、「活動」があります。原則5日間です。活動先の都合で、短くなることもあります。毎日の気づきや学びのふりかえり。独自の聴き取りも、積極的に行ってください。

後期は、「活動」のふりかえりを中心に、研究活動を行います。そして、報告会に向けたレポートの作成もします。

参考

- ・ 障害のある子どもの放課後保障全国連絡会（全国放課後連）
<http://www.houkagoren.sakura.ne.jp/index.html>
- ・ 障害のある子どもの放課後保障全国連絡会(編集) (2017) 『放課後等デイサービスハンドブック』かもがわ書店

担当教員からのメッセージ



知多圏域でしょうがいのある人たち、子どもたち、保護者たち、支援者たちの相談支援のアドバイザーをしています。また、療育等支援事業の中で、思春期・青年期の自閉性しょうがいの子どものいるお母さんたちのグループカウンセリングなどもしてきました。みなさんには、いま地域で、しょうがいのある子どもたち本人が、どんなことで困っていて、どのような支援をねがっているのかを中心に、そのねがいに応えるために、NPOなどがどのように本人支援や保護者支援を行いながら、どのような課題をもっているのかを子どもたちとの活動や聴き取りなどをとおして、どうなっている、なぜそうなのか、どうしたらよいかを活動に参加しながら、いっしょに考えていけると良いと思います。

まずは、子どもたちと「我を忘れ」て、「あそぶ」こと、「あそべる」ことです。